



2018年10月28日(日)

## 【2018年のレンゲの種について緊急報告】

日本レンゲの会に寄せられる今年のレンゲ作付状況に異常が多くみられました。会員およびレンゲの種購入の方々に緊急報告します。

これらの主な原因は、根粒菌です。もう一つの原因は、通常の手続を経ないで輸入される粗悪なレンゲの種の販売です。

日本レンゲの会では、これまで根粒菌の重要性を何度も報告しています。この根粒菌は昭和35年くらいまでは日本の原風景としてレンゲが咲いていて、何も気にすることなく毎年レンゲに共生して土の中に含まれていました。しかし、レンゲの栽培が廃れて60年近くになりますので、耕作地からこの根粒菌がなくなってしまった所が多くなりました。これが今年の各地でのレンゲが咲かないという報告への日本レンゲの会からのお知らせでした。ちなみに根粒菌は十勝農協で販売しています。詳しくは当会ホームページをご覧ください。 [nihonrenenokai.jp](http://nihonrenenokai.jp)

さらに最近聞かれるようになったのですが、レンゲの種販売業者によっては、種の品質管理をしないで販売する業者も出て来ています。

通常、レンゲの種は日本では生産されていません。全部、中国産です。良心的な業者は、中国の植物防疫機関による検査を受けて輸入し、種の発芽試験を実施したり、レンゲの種以外の不純物を取り除いていますが、これをらの処理をしない種の販売が横行しているようです。もちろんこれらの種には根粒菌が付いていませんので、レンゲを上手に咲かせることはできません。

レンゲ栽培が現状では限定的なので、レンゲの種販売の窓口は少ないようです。皆さまも粗悪品に十分にご注意ください。

日本レンゲの会・事務局

佐藤芳博